

# より加速化する性的活動の不活発化が明らかに —— 全国調査から明らかになる我が国における性的活動の実態 ——

## 発表のポイント

- ◆欧米と比較して、男女ともに性交渉経験のないもの、過去1年間性交渉経験のないものの割合が高いことが明らかになった。欧米と比較した高い風俗利用も明らかになった。
- ◆全国代表性のある解析を行った点、さらに異性間に限らずあらゆる性的指向を有する男女を対象にした点で新規性を有する。
- ◆少子高齢化や梅毒患者の増加など性交渉に起因する様々な社会課題が指摘されているが、そうした基盤となる我が国における性交渉の実態を提供するものである。

## 発表概要

東京大学大学院医学系研究科国際保健政策学分野の坂元晴香特任研究員と上田ピーター客員研究員は、我が国における性的活動やその満足度に関し、オンライン調査にて実態を明らかにしました。性的活動やその満足度に関してオンライン調査を実施しました。対象は、日本に住む20-49歳の男女8000人で、日本の人口を反映するように、性別で層別化し、年齢、婚姻状況、居住地域に関して重み付けをしました。女性では異性愛者が82.9%、無性愛者が10.0%であり、男性ではそれぞれ87.4%、6.9%でした。女性の15.3%、男性の19.8%が、これまでの生涯であらゆる形態の性交渉（膣、肛門、口腔内）をした相手がいなかったと回答しました。また、女性の45.3%、男性の44.5%が過去1年間に性的パートナーがいなかったと回答し、この割合は40-49歳の女性（51.7%）、20-29歳の男性（55.1%）で最も高いものでした。性生活に満足していると回答した人の割合は、女性27.8%、男性23.1%、不満と回答した人は女性17.6%、男性27.1%でした。週3回以上のポルノグラフィーの使用は20-29歳に多く（女性6.5%、男性34.8%）、年齢とともに使用頻度はやや減少していました。女性の4.0%、男性の48.3%が、生涯でセックスワーカー等の商業的性サービスを利用したことがあると回答しました。他の高所得国と比較して、日本では性交渉経験が乏しく、また性交渉への満足度も低いことが明らかとなりました。全国規模での性交渉の実態に関する調査は今回が初めてで、また異性間に限らずあらゆる性的指向を有する人を対象に加えた調査研究は今回が初めてとなります。少子化や梅毒等感染症の増加が指摘される中、その根底にある成人男女の性交渉の実態を明らかにすることは、こうした様々なセクシャルヘルスに関する課題解決につながるものです。分析結果は2023年2月27日に専門誌「Journal of Sex Research」に掲載されました。

## 発表内容

性と生殖に関する健康（Sexual and Reproductive Health）の向上は、世界のあらゆる場所と同様に、日本においても公衆衛生上の優先事項である。過去数十年の間に性的行動に影響を与える要因は大きく変化している。例えば、出会い系アプリの登場、ポルノグラフィーが無料でかつ容易に入手可能になったことなどが挙げられる。同時に、多くの国で、成人の性行為の頻度が低下していて、そうした傾向が新型コロナウイルスの流行によってさらに加速した可能性についても報告されている。

セクシャルヘルスや性的活動に関して全国代表性のある調査を実施することは、性と生殖に関する健康を改善するためにどのような介入方法が良いのか、その設計を行い実際の介入を評価する際の重要な情報となる。また、医療関係者、教育関係者、および一般市民の間で性的活動

に対する理解を深める上でも重要な役割を果たす。しかしながら、日本を含む東アジアでは性的活動に関する報告は少なく、またその報告内容も異性間の関係性における性的活動を見ているなど限定的である。したがって、今回は20-49歳の日本人成人を対象とし、オンラインで「日本人の性的行動に関する全国調査」を実施し、日本人の性的指向、性的活動の実態及びその満足度等について調査を実施した。

### 回答者の属性

- 女性は既婚者が56.5%、未婚（交際相手ありかつ同棲中）が2.7%、未婚（交際相手あり、同棲なし）が8.7%、未婚（交際相手なし）が32%だった。
- 男性ではこの数字はそれぞれ50.0%、1.8%、6.7%、41.5%であった。
- 性的指向に関しては女性の82.9%、男性の87.4%が異性愛者と回答し、20-29歳ではこの比率が最も低かった（女性75.7%、男性80.4%）。
- 女性ではバイセクシャルが5.5%、ホモセクシャルが0.9%、男性ではそれぞれ3.4%、2.0%であった。アセクシャルと答えた人は女性10.0%、男性6.9%で、特に20-29歳で最も多く（女性14.7%、男性11.1%）、年齢とともに少なくなった。

### 性交渉経験、パートナーの数、性交渉開始年齢

- 女性の15.3%がこれまでの生涯で性交渉相手がいなかったと答えており、この割合は20-29歳では29.7%、40-49歳で7.3%であった。男性では、19.8%が生涯での性交渉相手なしと答えており、年齢別割合は43.0%（20-29歳）、7.4%（40-49歳）であった。
- これまでの性的パートナー数の中央値は（性産業従事者との性交渉含む）、女性で3、男性で4であった。
- 性交渉開始年齢の中央値は女性・男性ともに20歳であった。性交渉開始年齢を16歳未満で回答した割合も女性・男性ともにほぼ同じで、それぞれ8.0%、8.4%だった。
- 過去1年間に週1回以上の性交渉があったと答えた人は（性産業従事者との性交渉含む）、女性で13.0%、男性で13.2%であった。
- 他方で、女性の45.3%、男性の44.5%が、過去1年間に性産業従事者含めて性的パートナーがいなかったと回答した。

### 性生活への満足度

- 性生活に「満足している」と答えた人の割合は、女性で27.8%、男性で23.1%だった。「満足していると思わない」と答えた人の割合は、女性で17.6%、男性で27.1%だった。
- 「性交渉の頻度を増やしたい」と回答した人の割合は、女性で26.0%、男性で46.4%だったのに対し、「性交渉の頻度を減らしたい」と回答した人の割合は、女性で13.4%、男性で5.8%だった。
- 性交渉を「とても大切だ」「やや大切だ」と回答した人の割合は、女性で37.4%、男性で54.2%であった。「あまり重要でない」「全く重要でない」と回答した人の割合は、女性で33.8%、男性で16.1%であった。

### 性産業やポルノグラフィーの利用

- これまでにポルノグラフィーを利用したことがあると回答したのは、女性で 35.5%、男性で 84.1%であった。週3回以上ポルノグラフィーを利用しているという回答は20代で最も多く、女性で 6.5%、男性で 34.8%だった。
- ポルノグラフィーの利用が性生活に悪い影響を与えていると回答した人の割合は、女性で 2.6%、男性で 4.1%であった。他方、良い影響を与えていると回答したのは、女性で 9.6%、男性で 19.3%であった。
- これまでの生涯で性的産業のサービスを利用したことがあると答えたのは、女性で 4.0%、男性で 48.3%であった。男性が最もよく利用するサービスは、ソープランド (30.6%)、コールサービス (ファッションヘルス・デリバリーヘルス) (27.1%)、ピンクサロン (19.5%) であった。

### 議論

- 性交渉経験のない割合が女性・男性とも非常に多いことが明らかとなった。生涯の性交渉相手がゼロだったと報告した割合は、20-29歳の女性で約30%、男性で43%、30-39歳の女性で14%、男性で17%であった。
- 著者らは2015年に実施された出生動向基本調査の割合を用いて同様の解析を行なっているが(30-34歳の女性の12%、男性の13%、35-39歳の女性の9%、男性の10%が異性との性交渉経験がないと報告)、その当時よりさらに性交渉未経験者が増えている。両者の調査は、調査対象者や質問項目設定等が異なるため単純比較は難しいが、2015年から2022年の間に性交渉未経験者が増えた可能性が考えられる。
- 欧米でも日本同様に性交渉未経験者の割合は年々増加傾向にあるが、その数値は日本と比較すると依然として低い(例:英国では25-34歳の女性の10%、男性の7%で性交渉経験が無いと回答)
- 日本では性的活動が不活発であることもまた明らかとなった。20-29歳の女性の42%、男性の55%が過去1年間に性的パートナーがいなかったと回答した。この割合は他の先進諸国の割合と比較すると突出して高い(例:ドイツで過去1年間に性交渉経験がないと回答したのは女性・男性ともに約20%前後(2016年))。しかしながら、こうした諸外国の調査はその大半が新型コロナウイルス流行前に実施された調査であることには留意が必要である。
- 20-29歳の女性(15%)、男性(11%)のかなりの割合が、自分は無性愛者であると回答している。この数字は、年齢とともに減少するが、諸外国と比較すると圧倒的に高い(英国・スウェーデンともに1%未満と報告)
- 本研究ではさらに、性交渉を重視していない人の割合や性生活への満足度も諸外国と比較して高いことが明らかとなった。各国で用いられている調査様式が異なることや根本的に性交渉やセクシャルヘルスに関する文化・価値観が大きく異なるため単純比較は難しいが、日本は性的活動が低調であり、またその満足度も低いことが明らかになった。
- 他方で、日本では性産業の利用が諸外国と比較して圧倒的に高いことも明らかとなった。

本研究では、女性の4%、男性の48%がこれまでの生涯で性産業を利用したことがあると回答している。スウェーデンでは、生涯で性産業に対して金銭等の報酬を提供したことがある割合は16-84歳の男性で約10%、女性では1%未満にとどまる。イギリスでも過去5年間の間に性交渉のためにお金を支払ったことがあると報告した男性の割合は、年齢層を超えて3-5%の範囲、女性ではほぼゼロであった。

## 発表者

東京大学大学院医学系研究科 国際保健学専攻 国際保健政策学分野

ピーター 上田（客員研究員）

坂元 晴香（特任研究員）

## 論文情報

〈雑誌〉 Journal of Sex Research

〈題名〉 Sexual Behaviors among individuals aged 20-49 in Japan: Initial Findings from a Quasi-Representative National Survey, 2022

〈著者〉 Cyrus Ghaznavi, Peter Ueda, Ayako Okuhama, Haruka Sakamoto

〈DOI〉 <https://doi.org/10.1080/00224499.2023.2178614>

## 問合せ先

東京大学大学院医学系研究科 国際保健学専攻 国際保健政策学分野

特任研究員 坂元 晴香（さかもと はるか）

Tel : 03-5841-3688 E-mail : harukask@m.u-tokyo.ac.jp

Fax : 03-5841-3637